

令和5年度 第1回 小松島市立学校再編準備会議 会議録【要旨】

【概要】

1. 日時： 令和5年7月5日（水）午後4時00分～午後5時09分まで
2. 場所： 教育庁舎 1階 会議室
3. 参加者： 【委員】垣内正治委員、尾田幸運委員、曾我部祐司委員、森田充委員、藤本孝之委員、水本徳子委員、稲田米昭委員、辻登志江委員、井内健人委員、前田洋一委員、小川宏樹委員、田口太郎委員、坂口敏司委員

【傍聴者・取材記者】 4名
4. 事務局： 【市教育委員会】小野寺教育長、勢井副教育長、高瀬教育次長、稼勢学校再編推進室長、河口学校再編推進室係長、大野学校再編推進室次長
5. 概要： ①開会
②教育長あいさつ
③議事
（1）今年度の取組について
（2）（仮称）新小松島小学校開校までのスケジュールについて
（3）今年度のスケジュールについて
（4）次回会議について
④その他
⑤閉会
6. 議事経過： 次頁以降に掲載

【議事経過】

1. 開 会

○高瀬教育次長

それでは「令和5年度 第1回小松島市立学校再編準備会議」を開会いたします。

今年度新たに(前任の方と交代いたしまして)「市PTA 連合会副会長、垣内 正治 様」、
「幼稚園保護者会 辻 登志江 様」、「保育所後援会連合会 森本 友晴 様」、「徳島
赤十字ひのみね医療療育センター リハビリテーション課作業療法係長 郡 千春 様」
に委員をお願いしております。委嘱状はお手元に配布させていただいておりますので、
ご確認ください。

2. 教育長あいさつ

○小野寺教育長

みなさんこんにちは、昨年度から6回目の小松島市立学校再編準備会議ということで
ございます。昨年6月に第1回の挨拶をさせていただいた事を思い出します。この一
年間がとても早く感じました。昨年一年間で新たな学校の校舎の位置など大枠について
本会で決めていただいて、全体像としては見えてきているところであります。ただし、
教育の中身であるとか、その他細部につきましては、まだまだこれから考えていかなけ
ればなりません。

先日、退職された校長先生とお話する機会がありました。小松島市の0歳児は157人
ですというお話がありました。157人というと今の学級編成35人学級でいうなら5学
級あれば足りる。このような少子化の流れというのはこの6年間だけでも変わっており
ます。現行の小学校6年生が280人ほどですが、それとくらべても半減しています。

現状のまま学校規模を維持していく事はなかなか困難であり、子どもたちが同年代の
子どもたちと一緒に勉強したり遊んだりということを維持していくためには、学校再編
を進めていかなければならないと思います。

学校再編は校舎だけが話が進んでいきますけれども、本当は校舎よりもその中でどの
ような教育がなされるかということが非常に重要な問題でございます。残された開校ま
での時間にそのことを含めて、小松島の未来の子どもたちのための教育ということ考
えていけたらと思います。新しい学校ができるのが令和9年の予定でございます。時間
的な猶予はあまりございません。子どもたち、先生方、市民のみなさんが新しい学校で
良かったねと思ってもらえるような学校づくりを、委員の皆様にもお知恵をいただき、
ご協力いただいて進めていただきたいと思います。どうぞ一年間お力添えをお願い申し
上げまして、ご挨拶とさせていただきます。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 議 事

(1) 今年度の取組について

○稼勢学校再編推進室長

- ・小松島市新小学校施設基本計画
- ・コンセプト、基本方針
- ・今年度の取組

○前田委員（会長）

今年度の取組についてご質問等がありましたらお願いします。

事務局は今年度の取組として「つながり」により子どもたちが育つ学校について意見をいただき、新しい学校の姿を具現化していきたいということでした。皆さんはどのような学校をイメージされますか。

○井内委員

地域に開かれたということであると、図書室がありますが、例えば司書を配置して、読み聞かせを行ったり等計画されていますか。また、学童の生徒が利用できるというような計画はされていますか。このようなことは部会で話し合うのでしょうか。

○高瀬次長

今ご発言していただいたようなことをいろいろご提案していただけたら助かります。

司書を配置するかどうかというような具体的な事はまだ決まっていますが、学童の生徒さんが利用できるかどうかというようなことは、部会で検討していけると思います。

○垣内委員

ソフト面についてはまだ何も進んでいないのでしょうか。ハード面の計画はわかりましたが、一番大事な子どもたちの学びの部分についてはどこまで進んでいるのか、どういことをコンセプトにこれから新しく再編していくのかということをお示しいただけたらと思います。

もう一つ、地域交流スペースについては、通常時いつでも誰でも利用できるものなののでしょうか。それとも何か展示があるときだけ開放するのか、時間制限を設けるのでしょうか。不審者等の問題があるのでどのように考えているのかお示しいただきたい。

○高瀬次長

交流スペースについて、地域交流と防犯対策という相反するものを実現するにはどうしたらいいかということについては、これから検討していくことになっています。学校としてのスペース、地域の方とのつながりをもったスペースということを考えながら、どのように利用していくかということはこの再編準備会議であったり、専門部会で話し

合いを行っていきたいと思います。

○小野寺教育長

学びについてどう考えているのかについては、教育課程等部会において中学校の先生方にも入っていただいて、小学校から中学校の流れについて、大胆に切り込んでみようかと考えています。

学校の教育課程というのは、学校長が策定するものなので、先生方の意見を聞きながら教育課程に反映していきたいと考えています。教科に関する教育課程というのは文部科学省の方から決まっておりますので、この部分については変更することはできませんが、総合的な学習の時間・道徳・人権や学校行事等について反映していけないだろうかと考えています。

また、担任制と教科担任制についてですが、小学校1年生にとって教科担任制がいいかということ、それは良くないですが、発達段階に応じて教科担任制を導入していくということも視野にいれなければいけないと考えています。

先ほどご意見いただいたことや、今私がお説明させていただいた件につきましては、今年度の教育課程等部会において話し合っ、本会の方へ報告をさせていただきたいと思ひます。

図書館と地域交流スペースについてですが、垣内委員さんのおっしゃるとおり一番の問題は防犯の面です。開放するということは不審者の対応が課題となって参ります。この点については、この準備会議で皆さんの意見を聞きながら、どのような形なら実現できるか考えていきたい。ハード面でどのように対応できるか、子ども・保護者・車の動線等についても今後の検討課題になっていくと考えております。

○曾我部委員

これまでの意見を聞いて、より良いものにするためには、予算的に厳しいとは思いますが、人が要るのではないかと思います。井内委員さんがおっしゃったように学校図書館を開放するために教職員が対応するという事は負担が大きく難しい。司書さんがいるということであればその対応をお願いすることができるかもしれない。

また、地域の交流スペースについても警備員が確保できれば柔軟に対応できるのではないかと思います。

教育長がおっしゃったように、小学校と中学校の交流で、中学校の教員が小学校へ交流にいくとなると、現在の教員定数ではゆとりがないため、プラスアルファで教員が必要となるかと思ひます。

○水本委員

地域の代表として参加している立場からすると、人と人とのつながりを大事にして、交流を持つことは素晴らしいと思います。

子育てを終えて振り返ってみると、小学校の時に近所の老人クラブの方と交流をしたという経験は、人生の中でいい思い出になっています。地域交流スペースを是非設けていただきたいと思います。

複数の小学校を一つにするということによって、小学校単位に存在しているコミュニティもなくなってしまいます。再編された小学校で地域との交流を持ちたいということになっても、地域の方にどのように声をかけていくか、どのコミュニティに声をかけるかということが課題になってくると思います。人材の確保のために広報等を利用して、ボランティアを募る等発信していくことが必要だと思います。

○小川委員

地域住民との交流における地域のコミュニティについて、これまでの各小学校単位の近所に住んでいる人という地縁関係的なものから、例えば中学校の部活や花壇の手入れのボランティアなど、テーマでのつながりをもったコミュニティを参考にしたらいいのではないのでしょうか。

ここまでは、小学校の側からみた地域に期待する役割ということを考えてきましたが、地域からみた小学校とのつながりということを新たに考える必要があります。地域という言葉が何を指しているのかもっと具体的に考える必要があるのではないのでしょうか。

○田口委員

地域という概念を土着的な概念だけでは考えることができなくなってきています。最近では NPO も増えているので、地域交流スペースの部分的指定管理を NPO に依頼するというような方法もあるのではないかと思います。

また建築的な面で、学校の敷地と外部をどのように分離するか、出入りの管理等をどのようにするかが課題です。内部を完全に開放すると保護者は当然セキュリティの面が不安になってくると思いますので、放課後の時間は指定管理ができるような NPO に依頼することで、学童保育にいかない子どもたちの居場所もつくることができると思います。利用方法等についても週替わりでテーマを変えるなどすることで、子どもの多様な趣味趣向に合うのではないかと思います。

そもそも一つの施設を部分的に管理するというようなことが起こりうるかどうかということが問題で、学校の施設計画上もセキュリティを分けて考えなければならなくなると思います。その方が運営管理もしやすいかと思うので、柔軟に検討していくことが必要だと思います。

○前田委員（会長）

学校という文化を持ったものを新しく造っていくことは、街づくりということと関係性が深いと思います。今まで分散していたものが、学校という形で一つに集まる時に、学校が地域を集約できる可能性が高いと思っています。学校は単なる教育施設だということだけでなく、人口減少や街づくりに関する問題を解決することができるかもしれない。単純に、学校と地域をつなぎますということではなく、学校が集まることによって地域をどう集約して、どのような機能をもたせて、街づくりをどうしていくのか考えていただきたいと思います。

他に何かございませんでしょうか。

それでは、たくさん意見を出していただいたので、これらの意見も踏まえながら専門部会、教育課程等部会では特に学びとのつながり、総務部会では特に地域とのつながりについて、さらに具体的な方法等を検討していく。それを準備会議に返すということによろしいでしょうか。

（委員了承）

（2）（仮称）新小松島小学校開校までのスケジュールについて

○稼勢学校再編推進室長

- ・（仮称）新小松島小学校開校までのスケジュール（想定）

○前田委員（会長）

アドバイザー業務について説明していただけますか。

○高瀬次長

従来の方式ですと、設計等を行うために入札を行い一つ一つ手順を踏んでいくのですが、設計・建設・維持管理を一括で行っていきたいと考えています。その官民連携手法を小松島市で初めて導入しますので、その件に関するアドバイスをしていただく業務をお願いするということです。

○前田委員（会長）

コンサルタントへの発注ということですか。

○高瀬次長

そうです。

○前田委員（会長）

業者は決まっていますか。

○高瀬次長

基本計画を作成した株式会社長大です。

○前田委員（会長）

それでは他に質問ありますか。

○小川委員

維持管理まで一括で依頼するということですが、先ほど議論にあがった、一部のスペースを指定管理するといったことを、オペレーションの中に入れて行っていくのか、それはメンテナンスというだけでないなら、運営の部分まで含めるのかということ、発注する業者への仕様書の中に記載していかなければならないため、早急に進めていかなければ、このスケジュールでは間に合わないのではないかと思います。

○前田委員（会長）

早めにどのような運営にするのか決定しておかないと、アドバイザー業者に対して依頼できない状態になるということですね。

○小川委員

そこまで決めなくても、エリアを交流部分と区画分離できる設計になっているのであれば、後から決定しても運営が可能かもしれませんが、そうでないなら運営が難しくなるため、仕様書に区画分離して運用ができることというような事を盛り込む必要があると思います。

○前田委員（会長）

坂口委員は専門的な目線からみて何か意見はございませんか。

○坂口委員

後から作るとなると、なかなか難しく、費用がかかるため、あらかじめ依頼しておく方が費用は安価に抑えられる。

○田口委員

そうすると、設計上かなり重要なポイントになってきますね。

○前田委員（会長）

事務局はどのようにする予定でしょうか。

○高瀬次長

アドバイザーの方に相談を行って、良い方法があれば検討していきたいと思います。

○前田委員（会長）

どこまで学校に機能を持たせるのかということを確認しておかなければいけないと思います。

○田口委員

企画に関して学校という事にこだわりすぎないことが大事ですね、一見一体化しているが、機能上は分離しているような、学校の枠を超えた地域拠点となり得るような令和型の小学校のあり方という論点整理してアドバイザーに投げかける必要があると思います。

○前田委員（会長）

アドバイザーへ要望するにしても、明確に要望してほしい。この学校を建てたときに、今後学校の再編がうまくいくかどうか、徳島をリードできるかと言ったら言い過ぎかもしれませんが、一つのモデルとして小学校のあり方を提示していただき、小松島が注目を浴びて、教育のまち小松島というようになればいいですね。小松島に住みたいという人が増えるとか、子育て支援等いろいろな事へ波及していく要素があるシンボリック的な小学校と位置づけるか、普通でいいのかということを確認してアドバイザーへ投げかけていただきたい。

他に何かございますか。

○垣内委員

私ども千代小学校地域は再編されていく側なんですけど、コミュニティーがなくなるので、地域の方は心配をしています。再編された小学校にどのように参加していったらいいのか、疑問に感じている地域です。そのため、地域交流ができるスペースを作りましたというだけでは納得がいかないです。それプラス徳島県をリードする教育環境をつくれる小学校を真剣に小松島の教育委員会が考えて欲しいと思っています。

5つの小学校がなくなるので、どの地域も抱えている悩みは同じですので、真剣に考えて、アドバイザーの業者へ依頼いただきたいと思います。

○前田委員（会長）

他になにかございますか。

○小川委員

令和9年度に開校ということですが、外構の方は令和9年度へ少しずれ込んでくると思います。そのため、グラウンドが使えないといったようなことが予想されます。そういったことは予想しておいて初年度の学校運営を考えた方がいいと思います。

○前田委員（会長）

他になにかございますか。

○藤本委員

私も鳴門の学校に勤めていたとき再編を経験しました。なくなっていった小学校の地域へ、どの部分で保証していくのか、校舎に反映させるのか、教育に反映させるのか、明確にしておく必要があると思います。もし校舎に反映させるのなら、基本設計までに間に合わせるために、なくなる小学校の地域の方の思いも含めて考えていかなければならないと思います。

○前田委員（会長）

小松島南中学校を再編する時、立江中学校と坂野中学校がなくなることになり、中学校に、歴史の展示を作りましたが、過去の歴史を懐かしむのは大人であって、新しいコミュニティを作るというのは子どもに対してです。大人目線で考えるか、子ども目線で考えるかの塩梅が難しいので、よく議論していただきたい。自分たちの思い出がのこって良かったという考え方と、新しいものに参加できて良かったという考え方があって、新しいものに参加できてよかったと思えるようなものを計画しなければ、昔の方が良かったということになってしまいます。

○辻委員

南小松島幼稚園は小松島唯一の幼稚園になりました。立江幼稚園がなくなった際に合流してくれた子どもたちもいます。園児は25名ですが、いろいろな学区から通っています。保護者の方と学校再編のお話をするのですが、わからないことへの不安というのが漠然とあるなと思います。

今学校に通っている子どもたちにどのような学校に通ってみたいか聞いてみることもいいと思います。自分たちの意見が反映された学校に通って、後輩に受け継いで、「自分たちの意見が反映された学校なんだ」という誇りを持った子たちが大人になっていく、その子たちが地域にいるというのはとてもいいことだと思います。子どもたちが考える社会というのは、何か新しい要素が入るのではないかと思います。

大人は不安が大きいですが、子どもたちは意外と楽しみにしているのではないかと思います。

○前田委員（会長）

地域に参画していただいたり、ワークショップという手法を使う事はあるのですが、取り入れたことを具現化するという事はハードルが高いと思いますが、取り入れられるなら取り入れていただいて、良いものができあがってくるという事を、常に市民へ発信していただき、待ち遠しい感をつくっていただきたい。

他に何かありますか。

ないようですので次へ進みます。

（3）今後のスケジュールについて

○稼勢学校再編推進室長

- ・今後のスケジュールについて

○前田委員（会長）

このスケジュールでよろしいでしょうか。

○小川委員

跡地利用の検討についてですが、南小松島小学校以外の小学校の跡地ということでしょうか。この点については、教育委員会で考えることなのでしょう。例えば小松島小学校の跡地については、都市計画マスタープランがございまして、そのパブリックコメントが出ていますが、中央会館が古くなるためそれをもっていくことや、幼稚園が手狭になるのでこども園をつくるといったことが新しい計画に組み込まれています。こういった内容は市役所の本体で構想することではないかと思うので、この場でこういった事まで考えるのは難しいのではないのでしょうか。

○高瀬課長

もちろんすべてをここで考えることは難しいと思います。跡地利用については、昨年度から庁内の方で考えています。防災の件や跡地利用について、地域の皆様のご意見を

伺いたいという趣旨で記載しておりますので、ここですべてを検討するということではございません。

○小川委員
わかりました。

○前田委員（会長）
それでは、今年度のスケジュールについて、このように進めてもよろしいでしょうか。

（委員了承）

（４）次回会議について

○前田委員（会長）
スケジュール予定に実施方針と書いていますが具体的にどのような方針なのか。

○高瀬次長
アドバイザーを受けながらどのような学校にしていくかということの方針案についてでございます。

4. その他

意見等なし

○前田委員（会長）
本日の議題についてはすべて終了しました。ご協力ありがとうございました。

5. 閉会

○高瀬教育次長
本日は、お忙しい中、長時間にわたりありがとうございました。教育委員会も一丸となって、わくわく感のある学校づくりを進めていきたいと思っておりますので、皆様ご協力よろしくお願い申し上げます。